

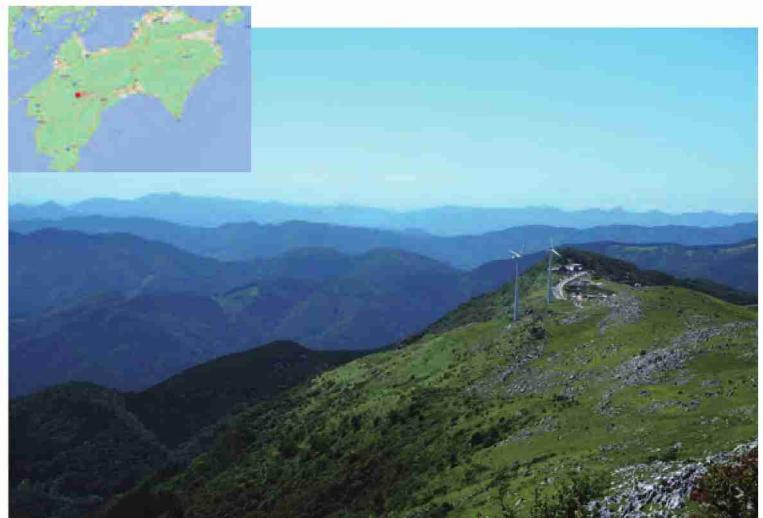
地域における水源林造成事業の取組

豊かな水を育む梼原の水源林 —高知県梼原町—

全国各地でこれまで60年間行ってきた水源林造成事業の取り組みについて、水源の森林と地域との関わり等具体的な事例をご紹介するものです。

所在地の概要

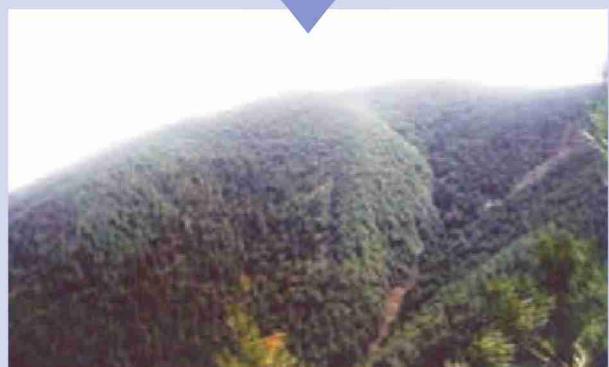
梼原町は町面積の91%を森林が占め、標高1,455mにもなる雄大な四国カルストに抱かれた自然豊かな山間の小さな町です。四国カルスト高原は、全国的にも珍しい高位高原カルスト地形になっており、至る所に手付かずの自然が残り、晴れた日などには太平洋から瀬戸内海まで一望できます。



四国カルストの風景



昭和41年当時



43年後の状況

地域と水源林のかかわり

梼原町の北東部に位置する中の川地区は、戸数11戸、人口26名の集落です。昭和36年度から41年度にかけて水源林造成事業による植林が行われ、森林が整備され水量が安定したことから、町は平成4年度に集落の飲料水供給施設を水源林造成事業地の直下に建設しました。この施設の集水区域約97haのうち、水源林造成事業地が占める割合は80% (75ha) に及びます。造林開始から50年が経過し、今では、スギ、ヒノキの立派な森林となっており、清らかな飲料水を安定的に各家庭に供給しています。



水源林造成事業地と中の川地区の位置図

「梼」木へんに寿。 木とともに幸せになる町 植原町…

梼原町森林の文化創造推進課
立道斎さん、中越正知さんに
お話を伺いました

中の川地区の森林整備の取組状況

中の川地区の契約地は5団地約116haあり、このうち、令和3年度には2団地約20haで、搬出間伐（搬出材積900m³）を実施する予定です。令和4年度も、約13haの搬出間伐（搬出材積300m³）を予定しています。令和3年度の木材の販売については梼原町森林組合の梼原ストックヤードで行う予定となっています。

現在は林内に3m幅員のトラック道を使ってフォワーダーやダンプで小出しをしていますが、周辺には複数の契約地があるので、将来的には基幹作業道の開設・改良を行いたいと考えています。これにより、森林施業のコスト削減、森林管理の効率化を図るとともに、森林全体が高齢級化しつつあることから、「伐って使って植えて育てる」ことや将来の林業技術の継承も考慮し、更新伐に取り組みたいと考えています。



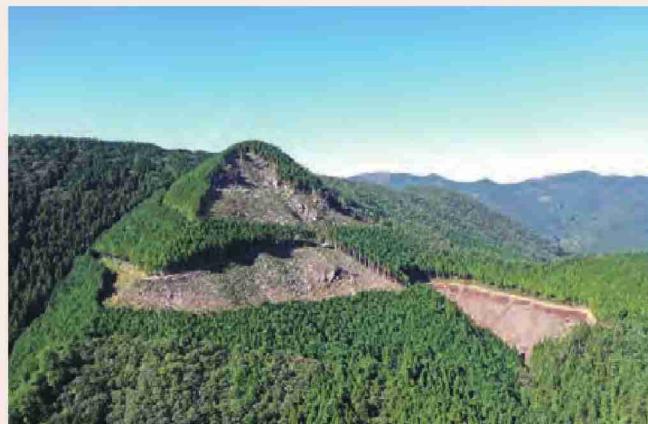
最近の契約地の様子

今後の課題と森林整備センターへの期待

梼原町は、個人の森林所有者の林業に対する理解が深い土地ですが、将来は所有者の世代交代などにより契約変更が進みにくい状況も想定されています。今後は町外の所有者、権利者が増加していくと思われますが、契約当初の森林への思い、森林整備の意義、地域への貢献などについて理解を得ながら事業を進めていくことが課題ではないでしょうか。

市町村では人事異動があるので「林業のプロ」としての森林整備センターの存在は大変ありがたいと感じています。

森林・林業の現場での様々な技術や知識を未来に承継していくように、森林整備センターと協力して地域の発展を目指したいと思います。



梼原町の育成複層林整備箇所の様子

梼原町の森林・林業の未来に向けて

梼原町には、昭和23年建築の木造芝居小屋「ゆすはら座」をはじめ、国立競技場の設計者である、隈研吾氏が設計した建築物が複数あるなど森林の文化を紡いでいる町です。

持続可能な社会に向けて森林は大きな役割を期待されていますが“森林との距離が遠くなった”との声もあるようです。

年配の方であれば下刈り作業の手伝い等の経験があるのですが、昨今ではこうした体験がある人も少なくなっています。“楽しめる里山林”など遊びの感覚で楽しめる環境づくり、この一方で先人の山造りの情熱・苦労等についても後世にしっかりと伝える必要があると思っています。様々な方策で「森林」への理解を深めていただけるよう、山村から取り組んでいければと思っています。



ゆすはら雲の上の図書館：隈研吾氏設計